





けりぬ道言い申すに
 流の無稽より申すに
 つまらぬ一冊の下
 たる保信寺の行の
 一ふ又流の流和
 之物人の字より無
 流中右流の流と一
 句の字合ふとて書
 とを結て書すは
 中道言いと申すに

卷五

無稽なるよ入

門へて初心悟中此言を尋ねて女を
よひりておのりおのりおのりおのりして
涙に板まよひておのりしておのりして
おのりしておのりしておのりしておのりして
おのりしておのりしておのりしておのりして
おのりしておのりしておのりしておのりして
おのりしておのりしておのりしておのりして
おのりしておのりしておのりしておのりして
おのりしておのりしておのりしておのりして

を和及流汗になよいはじめと
とたのこぢつるよ。おは流汗目を
のおのりおのりおのりおのりおのり
らにおのりおのりおのりおのりおのり
を成るうらうらうておのりおのり
や但し予う書るたつ分の難路す
かこの人おのりおのりおのりおのり
おのりおのりおのりおのりおのり

又不知其連中とは誰なるものか
 物斗しけいふよももをせまきと傳へ
 海をいまうハカれいりしをみ何うと
 れハ待けりかよハ不ぬ只く是れ句の
 対味この句のよもか終と云つたあな
 よより他のよも尾指二句はりり
 乃らありと云よ自注してこの句乃
 よしあハ待味と云ふいさくせん
 ころ書はる揚補てはつらり又先

書めをいさうあやまりのよも
 かの命へある初心の筆はしぬ道
 事と後として排遣よみくそ
 あやまるとして使はるは力の出
 来あらんよも目を交く又ハおな
 かしつとあひんよもといはるを
 後あるをいし持とてあつた
 まよは救ひあつたあつた人
 又字のわやまりかハ終ハ

味下るるころと。○予、室の養
 子ふぬやうに思ふ。尾十二句の月夜
 とらへて、おかしきかへ又増補
 中巻通巻と号する。

書林 棠松軒

一 お句付れ仕振 目録

一 付録三句を亂るの事

一 面八句の事

一 数句切字の事

一 尚流数句の事

一 面八句の事

一 表紙の事

一 表紙の仕振

一 目録の仕振

一 魚の洞并林被秋教述懐 去傷

一 去リ燈のしり

一 句去りのしり

一 人偏春不辨用

一 山寂のなき御用

一 夜分の洞

○ 鉤屑目録

一 當流に季れ洞

叙

目録終

泚語番匠童

凡 泚語ハ乞和奇乃一神山で着カ目守

武宗繼めしんめ負座老人は道を

わよさあま新式ふふとく人極楽に

より泚語世ふ世ふなれり中此難波

の梅春ををりし風神からくし

真ありし六宗園風そく喜くりて

やしゆりぬま存あつて風神移り詩

りこく声よよき世又いふ字なるありと
徳く習われられたるものなりけりや皆捨り
ぬ頂の高流と云ふはとらぬはと云ふは
代よ習られたるもの付合たる付又いふ子
付ありてせよして其一句れは味ひ重氣を
わらひ成との付よして各別物と云ふよ
作と云ふはと云ふはと云ふはと云ふは
世の心持よりせよや世よ世よ世よ
ぬいなる又の心持も知れざるあり

時くは時よよ方れたるものと初なる人志れ
よ丸附使し毛吹者山の井りていふ
古代の家通達初なるは徳^{ちと}なり書^しは
といふも時よわらるるは徳^{ちと}は徳^{ちと}なり
雨の高流と云ふ初なる人なりと云ふは
とわらるるは徳^{ちと}なりと云ふは徳^{ちと}なり
高流り用なり用ひしは徳^{ちと}なりと云ふは
用なりと云ふは徳^{ちと}なりと云ふは徳^{ちと}なり
ぬいなる人なりと云ふは徳^{ちと}なりと云ふは

一に二に三に四に五に六に七に八に九に十に十一に十二に十三に十四に十五に十六に十七に十八に十九に二十に二十一に二十二に二十三に二十四に二十五に二十六に二十七に二十八に二十九に三十に三十一に三十二に三十三に三十四に三十五に三十六に三十七に三十八に三十九に四十に四十一に四十二に四十三に四十四に四十五に四十六に四十七に四十八に四十九に五十に五十一に五十二に五十三に五十四に五十五に五十六に五十七に五十八に五十九に六十に六十一に六十二に六十三に六十四に六十五に六十六に六十七に六十八に六十九に七十に七十一に七十二に七十三に七十四に七十五に七十六に七十七に七十八に七十九に八十に八十一に八十二に八十三に八十四に八十五に八十六に八十七に八十八に八十九に九十に九十一に九十二に九十三に九十四に九十五に九十六に九十七に九十八に九十九に百に

◎ある付るる
 右流中は苗流の付るる
 のあるまで付りけり
 佐と知る

秋の露らぬ馬持の家

月も二人お慕^{ヒキ}成じひひ
 是を代の付知えあのやとる奈の
 一はて付るる

又中は宗因凡の時ハ

とちのちみかしくハ松の凡

毛も松葉の毛のほくそ付くまじと
毛も葉の毛のほくそ付く松の
露らるるらあは松の凡紙金情あ
しらひらり

又頃の氣付とらふハ

若葉や紙焼らん松がらり

毛蒸解けしてる係なるんどの
あは焼くまじけしんあり

又

大橋と小橋のありひき方とらて

毛も葉の毛のほくそ付くまじと
毛も葉の毛のほくそ付く松の
もせよまの持のあまこまうかあえ

又少切者あて付ら時ハ

又種の月ゆるあ紙焼くまじ

是のころ家風矯^リぶ史料の月
名取られたり流人^リを登^リこころ
家風持の家^リふふおれりあま
かころのけいこころ振あり

は神に能く分別^シく^シ高流の付
やうに廣くしてしまふはた^リ外^リおれ
を付おつてあま白^リれ^リお^リて^リ目^リ
付て付^リお^リて^リ只^リ一句の^リお^リの^リ
か^リけて^リは^リ味^リを^リお^リて^リ

色^リを^リお^リて^リお^リて^リお^リて^リ
心^リを^リお^リて^リお^リて^リお^リて^リ
乃^リに^リお^リて^リお^リて^リお^リて^リ
と^リに^リお^リて^リお^リて^リお^リて^リ
お^リて^リお^リて^リお^リて^リお^リて^リ
お^リて^リお^リて^リお^リて^リお^リて^リ

○意味三つありあつて

う^リに^リお^リて^リお^リて^リお^リて^リ

我々へ知子殿へ〜その後ハ
 一仙の向さ白ニ又〜
 あり百歌り〜
 八月申の夜七方にて
 真〜
 高方の衆は〜
 月多々今高方衆中へ

我ハ神工屋〜
 高方の月〜
 是れ人の志〜
 け〜
 字月の〜
 け〜
 傘カ借カルカ〜
 月多々活高方〜

たつよてたきかりごりころん
ねらふれあつておとせし
て海うみの中らふ心よて敷
白れ下らまてあひひつり

^{也三}ふおひすりた井のまよ海なるて
は才三何ころん人非らあひ
まぬりのいよめころ場回ら二月
ふよひてあよあひあつらも

秋の母のまよをんよひて
まよをころんてあつらもあつ
のりよ替りころんあて心六
けしあつてあまかれてけつら
才三ハ

^{也三}ひやくとあつらころん海氣
^日秋のいよめりあつらころんて

けがたて越へるあつて
けしう身ごころへ

荷取持あつてみだり人

付らわくそ那はくこの後

し毎れかたりたじうみの

里もとるゆきまゝに

多小座と送^またりてそを

多り人き物と付らりて

きし持ぬる可の申あつて
ふさむる

○それたげむそ打越のき係

あつて多小座在りあ

ぬと打越のききつて

白ひも何しるん

てせんら

○^{タカ}高き山とひらた村あ

ちから遠く馬路の道に
 けしきもさうらひとて
 持人さうらひとて
 心算のくさし裁を
 けしきもさうらひとて
 うさぎさうらひとて

ちから遠く馬路の道に
 けしきもさうらひとて

ちから遠く馬路の道に
 けしきもさうらひとて

けしきもさうらひとて
 持人さうらひとて
 心算のくさし裁を
 けしきもさうらひとて
 うさぎさうらひとて

新編 源氏物語 卷之九

前白よりうら気味あり

雛の敷ヒイナのころトシにカホ起つ

前白のまよき画とあまのまよ
始のまよき画とあまのまよ
おひかほのまよのうかろ
まよのまよき画とあまのまよ
う持んかかかんくろのまよ
侍のまよき画とあまのまよ

まよのまよき画とあまのまよ

くろのまよき画とあまのまよ

まよのまよき画とあまのまよ
まよのまよき画とあまのまよ
まよのまよき画とあまのまよ
まよのまよき画とあまのまよ
まよのまよき画とあまのまよ

續也すまよのまよき画とあまのまよ

和歌
集
卷
五

和歌
集
卷
五

人の死はまじき事なり
はるかにてはれり
なれり
まじき事なり
まじき事なり
まじき事なり
まじき事なり
まじき事なり
まじき事なり

まじき事なり
まじき事なり
まじき事なり
まじき事なり
まじき事なり

まじき事なり
まじき事なり
まじき事なり
まじき事なり
まじき事なり
まじき事なり
まじき事なり
まじき事なり

和歌
集
卷
五

ヤ

見やは師や方丈の椽^五

是の空の気と云ふは
よも軍ねとて和尙と對
るやのてんてんてん
す見は師をいふは
くーくーくー

○西八句

發るのの音の響かふのけ
こめてすうとせり今六
すんたふのあつ附と
とひつよいこる神如
の月とていふはあつ
凡の發句

○發る切字

中せ共りたるあり
あせとらけりみ

五

五

けいひんそくふんせうりく

ちか下知切しころみさう

あけらけらけあけあけあけあ

あまあまあまあまあまあ

けいひんそくふんせうりく

あけらけらけあけあけあけあ

あまあまあまあまあまあ

のくしあまあまあ

あまあまあまあまあまあ

るやういふいふのふあまあまあ
あけらけらけあけあけあけあ
あまあまあまあまあまあま
あまあまあまあまあまあま

○ 糸のたてふんせうりく

あまあまあまあまあまあ

あまあまあまあまあまあ

あまあまあまあまあまあ

あまあまあまあまあまあ

一晶

信徳

我黒

五

五

香道

○ 夕陽とあつらふ月
かろきりて 淡路島のらん 堀下 如泉
雲の里男が 芳ふじとや 聖
稲妻や 二本上と 小松原 聖
蝶々^{テウ}の^チ草^ツ ^{カホ} ^{カキ} ^{カキ} ^{カキ}
ふきしりのひてそのつら 風
驚れりしらとて 爰句

有池や 性飛込び みのる ^イ
名は 舟めふ 雨かきし ^{カキ} 山樞 ^{カキ} 湖春
花とけと 鳴りつら 春嵐の 勢 ^イ 丸
三春路は 何様を 今よりなり 聖
け新の上を 舟人の 上よりなり ^イ
け格物心のうら 好むべし
は 徳句なりあり

香道

七

右二筋の辨とらひけてすべし

一 脇

右脇の連方のごとく辨とらひて
辨とられし今の大概辨とらひ
えおれり又氣氣とてわらひ
てよしてよみかて辨とらひ
ひかれしも澳に察通成しゆ
すゝめられしよこあをす
し同くハ韻字とあてあ

季の時並とてころわぬは

一 中三

とあゆしあてふ中三折合を
ららんとあゆしあふとあ
をふかかせぬがよし同季の
綴とハ口ハ内音ふし中三ハ
ゆてろくし最句之春の最句
かハ綴ハ中三の部才三ハ
生ものゆし又三月ふ海を

こそすめしき美あつハカスミノトカ後長閑う
 らくおのの終ヒりよる二月と
 用り抱え衣杖冬とも歌ウタま
 ね付らいうすくた一句のくけん
 くとあましくあまらうんんもは代
 の法ホウと駒ウマ子とあおの芽メ三上
 のあよまよまらうのあれも初心
 のうま甲カウ後ノチとよあがう

一 田タ代ノチおはうあらのとそあらく
 とする法也付あいらうすくも
 一句すしきとしてかりとああり
 いてあて極くもか何よせし
 一 天テン子シ御ミあしシ只ただたよの
 うらあられとあやうにう

くともどが

一七句め 後句編者之を正月あくはけ而
月の常座に秋の月で然又他
の季の月もつらうくはけ

一八句め 七句めまで月あつたうあひ
あれた家よ月とらうくありこ
かれ月とらふくはけくはせあが
ゆ

一四句め 無常 人教 体懐 非

後者亦古人の名 同名字 同ま
神 後をも 無常 大黒 八福 非
加ゆらげろえ 又後句 非 後
人 後 名 不 あり 八 後 七
す 後

一 後 十 句 十 三 句 後 後 句 後 句
す 又 十 句 後 月 秋 の 月 後 月 後
と 後 後 後 後 後 後 後 後 後 後

中へは花をお秋の句月とす
わかれはつとあやとせれより
あや月とつとあやとせれ
あひもあやとせれなりと
花のうら十三句よりあよ能
あひもあやとせれなりと
あひもあやとせれなりと
あひもあやとせれなりと
あひもあやとせれなりと

あひもあやとせれなりと
あひもあやとせれなりと
あひもあやとせれなりと
あひもあやとせれなりと
あひもあやとせれなりと
あひもあやとせれなりと
あひもあやとせれなりと
あひもあやとせれなりと
あひもあやとせれなりと
あひもあやとせれなりと
あひもあやとせれなりと
あひもあやとせれなりと
あひもあやとせれなりと
あひもあやとせれなりと
あひもあやとせれなりと

二の巻十四句 初らら十四句の法りあ
三の巻十四句 右はあ

一花^{ナハナ}のうら八句 月いせあへ七句あ
花の定^{サマシ}花へ句^{ホト}のむとそあ
しく常^{トヨク}花の花へと子句よあ
席の換^{カハ}と月を夜やういす
えあひの花の白かもんあ
ととと

○ 花仙の仕女

一花仙^{ハナノトメ}の仕女^{シメ}とらあへり^{ツキ}向^{ムカ}あ句
うら十二句の初らり^{ハナノトメ}と十二
句うらあ句よそい^イと二十あ
句く月花の舞うら十一句
あ花向^{ムカ}又句あ月の室^{ムロ}あ
うらあ句よ月を花^{ハナ}の
名^ナ初らうらと回あ

いあへ連がまやう仙の
後人の名は二十一人白と
もよまふてはまきける例
りしく御指しもともた
りすすく教針二十六
白こすらあり

○巴十ヤノ住指

一巴十に御指とりあひ百韻之法

と物打し名跡のうらと二
りあして二三のりともあつて
あふえ百韻の法よあり

○意力調

意の心。意の調。意の海。意衣。意心
あし意。意意。意乃まよあ意よ
得あひの。あひの。あひの。あひの
とれあひの。あひの。あひの。あひの

思

思

下あえさ ちか世よみられる皮
河の網をよよあべ

野鳥

お森燈子。素の鹿。川行の鳥
けま。籠子。えん好まし

養虎

寺のふん。西のふん

娘

幼少のふん。魚目あらし。やま
時娘 伝道娘か

妖人

妖し。妖し。妖し。妖し

女

とどかりもあふあし。やま女
て女。て女。て女。て女

妻

あけ。あひ人。あ後家

髪

髪。髪。髪。髪。髪。髪。髪。髪

髪

髪。髪。髪。髪。髪。髪。髪。髪

枕

枕。枕。枕。枕。枕。枕。枕。枕

別^{キヌ}は新^{キヌ}くむ言^{コト}かひのまゝあ

言^{コト}文^{タニツサ}玉^{タマ}系^{ケイ}
後朝の文

ひる寝^ネふの祿^{ロク}い^イ立^{タテ} 祿^{ロク}引^{ヒキ}

寝りの業。浮らるる。わらわらるる。らるる。いそむ。いそむ。わらわらるる。後らるる。物来

将^{ダテ}達^{ダテ} 乃^ナ乃^ナ乃^ナ乃^ナ乃^ナ

人^{ヒト}目^メ人^{ヒト}目^メの突^{ツキ}人^{ヒト}目^メ志^シのふ 人^{ヒト}目^メふ

神祇の御のておのせは答え之はとらるる業ふはに御座る王とらるる業

物^{モノ}々^々々^々々^々々^々々^々々^々

也^ヤ好^{コト} 人^{ヒト}を^ヲ男^ヲ。人^{ヒト}を^ヲ男^ヲ。人^{ヒト}を^ヲ男^ヲ。人^{ヒト}を^ヲ男^ヲ。

眼^メ 眼^メの心^{ココロ}。眼^メの海^{ウミ}。はさぬ眼^メ。はさぬ眼^メ。はさぬ眼^メ。はさぬ眼^メ。

書

からり ころり

若の立 うらなひ。おんま。おんこ。おんこ。
チルよまきあし

うらなひ ころり あら

妻 ツメ 妹 イモ 侍宵 ヒツヨイ 侍

夜 ヨ 夜 ヨ 夜 ヨ 夜 ヨ 夜 ヨ

ねむねむのふせはくも志気あ
とらふんこまあり

安見の鏡 アサミ 鏡の侍 カガミ 占 ウラナヒ 辻占 ツジウラ 灰占 ハイウラ

形見 カタミ その寝 ネ 出家 シュツケ 坊 ボウ 坊 ボウ

けお連その相もまきし 雑
よも鹿とつちりつるあ
おまのこらも俗すま
意の羽あ凡の雑務よ用ひる

書

あつちのうへ

あつちのうへにうへをまてする法が
れた今にうへをまて擗てきりふ
とあつちのうへにうへがれにうへ
よりのうへをまてきり離れ
しうへをまてうへをまてす
猫麻のうへをまてうへをまて
じうへをまてうへをまてのうへ

あつちのうへにうへをまてする法が
あつち

あつちのうへにうへをまてする法が

あつちのうへにうへをまてする法が
あつちのうへ

あつちのうへにうへをまてする法が
あつちのうへにうへをまてする法が

鳥居のつらびもはたかり

まじりておぼしめしむるは

けしよめくあはれなりと
く知れぬものもあはれ

○神祇の詞

宮ミヤ 久井 古久 久美 小久

社ヤシロ

古社。若社。板の社。ワラの社。あや
の社。若の社。社櫃。社乃。末社

祠ホコラ

鳥居トリノイ

新の鳥居。若の鳥居。此の
鳥井。石の鳥井。金の鳥井

黒木の鳥井

のくまの鳥井

玉垣タマカキ

新の玉垣。若の玉垣
若の玉垣。若の玉垣

瑞垣ミツガキ

かしの垣 千木の垣

娘敷 ハイレシ 河後友 とも 橋 ハシ 名のり橋

孫宜 子ギ 加んぎ。文守。法人。市。ともり子

法忠。法司。法家。法僧 夫人。法般力

伊勢 河後。大吏 伊子 伊作。結良

おん子。おん山。おん川

おん陽山。おん陽山。おん陽山

紙くろく

河後 カノキ おん子。おん山。おん川

里 サト 河陽 ユカテ おん子。おん山。おん川

河後 カノキ おん子。おん山。おん川

神樂 シノヨ 柳 ヤナギ おん子。おん山。おん川

河津連引 カワヅ おん子。おん山。おん川

僧 老傍 弟傍 福傍 貧傍 平傍
貧傍 危傍 婦傍 子傍

寺 寺中 寺家 塔中

門 院家 國師 禪師

律師 傍祿 長老 聖人 和尚

西堂 東堂 齋座 藏主 典主

書記 行堂 阿闍梨 僧正

僧都 法下 法眼 挨拶 碩学

けり傍官宗有くよあまの
もろ人教へ御備の者くまも
くつまひのくまわいし

○体懐之詞

若かりふ。親子ありふ。公老。中流の能

世よみぬ。世と捨る。捨る人。隠家の隠所
大方は多きこと神人
多執。心食。非人。窮人。病苦のこ
けおのりく。まへへ。今も迷懐か
りしり

○名傷

化野 アタシノ 天帝の焔。かろぬ道 古流
あること別 古流 無常性
古流の神し

死の沙汰 サタ 人焼場 腋切 キリ 自害 ジカイ

かろぬの焔 皆名傷のこへてある句を
急な名傷も後の方へしとてよく
よみ紙付してりあるすべし

○去り換の事

去り換 キリカ 名本 本上 行 果ト本
かろぬのこへてある句のこへてある句
る極め二句し

いづれかとおもひつらりくろききし二
りまきし鳥は朝陽多くと久所分
二句し 月日星初りてとふ家
のり二句し

○三句去リ

山^サ路^ロ水^ミ香^カ 生^シ花^ハ
神^シ紙^キ及^キ教^{カウ} 毎^ミ常^{ジョウ} 在^キ在^シ

けいごめい
しりしり
うとくうと

同字 猿^サ神^シ夜^ヤ分^{ブン} 时^ジ分^{ブン} 期と船
又と子

風^フ凡^フ多^タ花^ハく^ク 雲^{クモ}と^ト空^{カラ}
梅おとく
よとく
もとく

○又句去リ

月^{ツキ}松^{マツ}舟^{フネ}髪^{カミ}梳^シ竹^{タケ}衣^イ 燧^ヒ田^タ同^{ドウ}字

燧田同字

○人倫

君上人ミコトノヒト 殿上人ノボリノヒト 武士ムシ 侍サマ 下シモ

部ベ 子コ 僧ソウ 僧ソウ 僧ソウ 僧ソウ

尼比丘尼ニヒクニ 衛者ヱシヤ 文者モンシヤ 醫師イシ

松原マツハラ 長原ナガハラ 農人ノウジン 農人ノウジン 農人ノウジン

商人シヤジン 商人シヤジン 商人シヤジン 識人シキジン

猿樂サルガク 役者ヤクシヤ 座ザ 座ザ

翁オウ 舟フネ 舟フネ 舟フネ

家イヘ 家イヘ 家イヘ 家イヘ

益賊トクゾク 益賊トクゾク 益賊トクゾク

○非人倫ヒトノリ

○非人倫ヒトノリ

七五

類

奉行 代官。月代。目付。石付。 勢揃 大勢。大勢。大勢。

俗 あま。あま。あま。 順礼 人形。人形。

中 あま。あま。あま。 酒 あま。あま。あま。

ト あま。あま。あま。 六親 あま。あま。あま。

と あま。あま。あま。 云家

○居所の類の分

家 戸。戸。戸。 城 城。城。城。

座 座。座。座。 座 座。座。座。

庵 庵。庵。庵。 庵 庵。庵。庵。

居所用の分

庭 庭。庭。庭。 外 外。外。外。

山類の分

類

山



山 岑。嶽。冢。峯。岬。岨。嶺。嶺。坂。峯。谷。崎。他。瓦。上。蘇。招。

同用此分

山 炭。電。抄。抄。抄。

山類分

山 よ。の。開。あ。の。の。雲。足。拍。の。雲。山

鳥 の。の。山。梨。れ。山。人

山 の。の。川。葛。城。久。米。海。の。富士

兆山類分

鳥 海。海。の。三。海。海。の。子

山 の。山。川。山。川。山。川。

山 科。の。山。山。の。山。山。

山

山

類聚
小野
小野の
立田の奥
小塩の池

の 小野 小野の 立田の奥 小塩の池

老 木曾 嶺 山 山

猿 氷 石橋 三浦

ケ 崎 氷室

水邊 神の分

海 浦。湊。沖。津。 崎。嶺。嶺。泉

川 池 池 井 井 古井

み ど

水邊 用の分

水 淡 阿伽 塩

氷 氷室

水邊 神用の分

番五

七五

船 筏 浮木 浮桶 塩屋
 流 燈 燈 燒 魚 網
 釣 籠 下 桶 釣 壺 海 人
 蛸 壘 藻 の 糸 糸 布 の 糸
 水 邊 の 糸
 浦 邊 の 糸 石

浪 戸 清 見 寺 上 橋 橋 非
 志 加 丸 松 沖 緩 け づ 回
 井 月 の 町 や 難 波 津
 三 輪 ヶ 崎 杉 崎
 天 浮 橋 天 水 邊 分
 横 川 三 輪 川

苗代 田のくげひ 難波 さ 志賀

佐吉 大井 深千 の三宅 明

石の屋 松浦 ね あつ び が 糸

白川の屋 秋の 屋 の 月 の 屋 の 屋

布 ら 室 の 八 の 室 の 室

海 河の 海 小田の 標 の 田

菅 九井 の 海

夜 分 丸 網

著 あけ ら れ ぬ が 丸 あけ ら れ

別 の 名 の 名 の 名

燈 の 火 の 火 の 火 の 火

床 の 下 の 紐 の 下 の 紐

少と。又霞。うつくぬ。とのお
草クサ 薙ハシロ けす

庭鳥ニハトリ かうあり
よい

聞ミ りか妻ツメ 日ヒ 待マ 糸イト 不フ 七夕セウハタ

あふろ けりか 錦ニギハヤ

鶴ツル 糸イト

...

詠諧手斧屠 四季之詞

○春 青陽 青帝 陽春
蒼天 東君 韶光

正月 ひろき ちのちる月 初元月
かどくそあ月 太郎月

元日 けさ乃春 ちの元 日ヒ 光
こののちあ ちの元 初ハツ

年頭 年トシ 節ノチ 歳旦

○四ヨ 方カタ 拜ヒ 是コト 乃ナ 時トキ 乃ナ 屬リキ

二月

野々 ノノ 天北の方乃山陵とあり あまのり
齒固 ハカコ ところのみ 焼餅 能 ハカコ

屑蘇 ホコ 白散二日 度瘴散 三日 おやこ

朝賀 アサガ 小物拜 の群居の拜 乃 乃

元日 ゲンジ 節會 なげ 水様 水様 國柄 國柄

翁 ウヂ 佐司養 七曜 麻

祇園 キエン けりうけれ 祇 能 寅の刻

昆沙門 コンシャモン のろく 經 キョウ 能 能

門松 カドマツ 松 かさりの作 松 かさりのまら

み水 ミミ 若み かさりの炭 能 ねほ

蓬菜 ホウライ かさる ねほ 能 ねほ

た タ 能 ねほ 能 ねほ

な ナ 能 ねほ 能 ねほ

ふ月

○毬打キチウチ 毬袖キチウチささう月ツキありく月ツキ五イの方カタ糸

○そね流ソネナガくハ胡コ鬼キの子コ日ヒ

破ヤ魔マ弓ユミ 破ヤ魔マ矢ヤ日ヒえうウびビきキ日ヒ

弓ユミえうウびビきキ日ヒのりノリそめソメ飛トビるルくク

きキきキえうウびビきキ日ヒのりノリそめソメ飛トビるルくク

ありアリ初ハツ夢ユメ 去ク年ネン 今イマ年ネン 今イマ年ネン

年ネン 暦レイひヒらラきキ 松マツえエやヤ 毬キ

たるタル約ヤク 毬キ 万マン 歳サイ 樂ラク 日ヒ 碓ヱ 哥カ 節セツ のノ まマ

餘ヨリ 情セイ 追ツイ 日ヒ 松マツ えエ 日ヒ 俗ソク よヨ のノ 雨アメ とト

甘カン いイ 糸イト つツ むム 日ヒ いイ ねネ あア らラ 日ヒ えエ 三サン のノ 寤オノ 起キ

けケ さサ うウ 久ク 夢ユメ 日ヒ 桃モモ 符フ 仙セン 木キ 桃モモ 梗キョウ 林リン 茶チャ

鬱ウツ 墨シ のノ 二ニ 林リン とト 二ニ 林リン とト 二ニ 林リン とト 二ニ 林リン とト

コト

三

幼子日ハツコヒ 子日コヒ乃ノあそひ 小松コマツひく

若菜ワカナ 幼コさうろ 七シらき ぶし ぐまろう

すくろ 神カミ 仏ブツのたのめくろ 草クサみ菜ナこ

物寅系モノトモ 他タ ぬこれろ 日ヒ上の寅トモの月ツキ

卯杖ウサギ 朝アサ 勤マカ 行ユク 幸サイ 二日ニヒあり

叙位ジヤウイ 天子テンシの年トシ 五日イツヒ或ナラバ六日ムツヒ法ホウ

官クワンの年トシ 叙ジヤウイと奏ソウ一イツ位イと 白馬ハクバ節セツ會カイ

七日シツヒのとじまの 菜ナ 摘ツク 河カハ 神カミ 事コト 七シツ日ニチ

常陸トコノエ 常トコノエ 陸ノ 常トコノエ 陸ノ 常トコノエ 陸ノ 常トコノエ 陸ノ

夷ヒナ 祭マツリ 縣ケン 召メカシ の 除ノゾク 日ヒ

男ヲ 婿ムコ 哥カ 十日トウジツの夜ヨ あり

あそび 男ヲ 婿ムコ 哥カ 十日トウジツの夜ヨ あり

あそび 男ヲ 婿ムコ 哥カ 十日トウジツの夜ヨ あり

五

四季

のよこに女縮哥ハ
十六日此夜あり
網曳 桃 三毬打 義

長吉書
十五日 御教 十五日 かの

の本 日日
くもつゑ ちのこきありしに
廿の癩をうけ戲あり

賭弓 十八日 天子弓場殿中
弓と矢並にまゐるあり
厄神

まのり 九日 能十
具足の後より 日 内宴

十六日に壽殿
御忌 在五日法後上人
福壽 の日あり

二月

たのこどり みとりの
霞 三月よりさるの夜

網秋 色子
山椒の皮 桃

野老 田
百の宮 楽 夜

洞 去之仙境をり
あまの ひと

○二月 小正月 栞見月

初午 初午の月
東福寺 廿一日

いより金邊

春日祭カスカ 上申日 是未日 近傍中おる勅使

大系野祭オホハラノ 上申日 吉野の餅モチくらり

二月一日 藁ワラの祓ハラヘ ちりより 遺教經イノチノミコト 佛ブツ

佛ブツの別ワケ 二月のころき

精塔セウタウ 十六日 或石

朧月夜オロシキヨ 天王寺テンノウジ 聖靈念セイレイネン 日ヒ

冬フユ 他元日タヒノヒ 東風トウフウ 氷ヒヤとらるト 氷ヒヤとらるト

わてとらるワ 他魚イサ あよのほアヨノホ 月合ツキガヒ

雪ユキとらるト 雪ユキのころユキノコロ 雪ユキのころユキノコロ

赤目アカメ 下シタ とえトエ くらクラ

たちチチ 他菜花タヒサイハナ 苜草モウソウ 幼草コウソウ ようゆんヨウユン

くらクラ 日ヒ ぬさヌサ のたノタ 日ヒ 梅ウメ け草ケクサ

四季

ヨ

白ひ草 香あふん草。冬に至梅を栲 臘

栲等の外皆春あり

柳 柳とやさ 風ん草 川をひ草の目より

学 折 二柳等皆春あり 金衣鳥 雪の琴 雪の笛ハ

依保娘 三脰 長保 ともりり

如象 水ぬるび ありてう 三脰 ゆえ

梅がえうふ 青柳うふ 松乃花

存化して鳩とある 令 蛇穴と出

継尾の存 白尾の初 尾と初 尾と云

鳥の巢 古巢 鳥の轉 雛子

まてす人鳥 鳥の枯 朝 燕 巢

白ひ草の雛のまてすて 燕 巢 白ひ草

未だよめてとるとあり

未だよめてとるとあり

四季

白の上 鳩の唇 唇の名跡 鳩の口

雲雀 鳩の口 鳩の口

蝶 鳩の口 鳩の口

いと 鳩の口 鳩の口

初射 鳩の口 鳩の口

あぐみ 鳩の口 鳩の口

五二
月

雷 初稲 びんり月 初稲 糸篠

はぎ木 苗代 黄 野 焼

焼 畑を 畑を

苗代 苗代 苗代

種まき 麻まき うぐい

松菜 防風

四季

たけなほ あまふと云 草がくぐりまき

茅のこぐし わかみらサキ 葎 角心

芦 アサ 薙 ヒ けんや 他フミ 筋 アサ 日

菅 チサ 日 日 海雲 モ 紙蓍 ヒ 日 イ のり

〇二月 春行 花見月 栴月

巳の月 水 此くく 上巳 水邊ふてくく て 疾痛と除くことあり

曲水の宴 キクスイ 桃花の節 トウカ 桃つる能事 桃

今 色 日 柳 葉 日 〇 桃 花 生 ニ 薬作ちの宴 ヤク

王 洞 柳 系 暗 金 溝 ニ 勝余 エ 七日 天 武 了 皇 法 花 祭 祭 非 祇 官 中 ニ

た こ ろ あ り と 寒食 カ 至 行 百 五 日 鞆

輓 ノ 戲 半 仙 ノ 戲 を 会 の 法 あ る と あり 〇 俗 よ ズ こ の り あり

任 者 の 温 子 他 去 依 の 海 祝 石 立

と月

他三月 石山祭 他 粟津祭 他

水尾祭 九日 金とくひ花 月日 比良

祭 他十 王生念佛 他十日より

縁の大会 仏 十五日 千日念佛 寺

乃花の 浅草祭 十日 御身拭 十

の釈迦 浄影供 十一日 弘 猫荷の法出

中の午 順の峯入 永き月

日 夜近 暮乃春

春のえゆ 春の傍 燧とくく 他 時をれ

巢よぶこも 雲よ入るくも

来夕鶴 他あふ のり 巢 栞貝 栞

魚 栞鯛 又あみ 鮎 小鮎 他

菘スズ 菘スズの茎スズ 芥カイ 芥カイ 柀コ 柀コ

他ヒ 瓜ウの茶チ 新シン茶チ 茶チつと日ヒ 新シン茶チと云ク

み用ミえんエン うウこコぎギ 他ヒ みミとトみミ日ヒ あアづヅゆユ菊キクかカうウ

らラのノ菊キク日ヒ 梯ハシ茶チ 日ヒ九ク菘ス茶チ 馬ウマ蔘セン 日ヒ或ニ或ニ

あアひヒのノ日ヒ 金キン鳳ホウ花ケ日ヒ 並ナゆユ人ニ日ヒ 下ゲ

子シのノ茎キ日ヒ 眉メイ他ヒのノ花ハ 日ヒ鬼キ蔘セン 日ヒ ありアリ いイ

どドりリ日ヒ ちチやヤうウがガ竹タケ日ヒ あアらラのノ日ヒ きキ日ヒ

せセんンまマのノ日ヒ 白ハク裏リ赤セキ花ハとト

山ヤマ吹フキ衣イ 表ウラらラむム日ヒ ばバドド衣イ 表ウラすスうウ

夏ナツ 朱シユ明メイ 具ク天テン

○四月 卯月卯の花日 得トクちチ卯ウのノ月ツキ

文モン衣イ 日ヒ 白ハク重ジュウ 青アヲ簾セン 表ウラのノ日ヒ 表ウラすスうウ

あぐせ 能くせ 執麻祭 ツツリ 一日或ハ初の午日

稲荷祭 イナリ 初の午 山科祭 ヤマナカ 上巳の 松 マツ 日

尾糸祭 ビシ 酉の 當麻祭 タマ 上乃 灌佛 クワンブツ 八日

五香水 イハナ 浴佛 日忘祭 ヒワイ 中乃 賀祭 カガヒ 申れ日

糸西 イト 中乃 十圍子 ジュウイ 能十 優祭 ウエ 能中乃

排 ハライ 栲天 コト 孟夏の 麦丸秋丸 マクワン 秋丸

稷秋 シウ 能アス 喜麦 キマク 能茶 ぬる人草 ヌルヒトクサ 乃ら草

最長草 モチノチ とうゆの草 芍薬 セキヤク 乃ら草 社 シャ 乃ら草

夜下 ヨシノ 芍牡丹の草 茶草 チノカ 能アホヒクサ からのあひ カヨノアヒ

一八 ヒツヤカ 射干 セツカン 能 蕃薇 ハンペイ 日 嬰虫 オウチュウ 乃ら草

忍夜 ニゲ 日 木どり キノドリ 乃ら草 茶川草 チカワ 乃ら草 乃 ノ 乃ら草

の志 ノシ 乃楓 ノカエド 乃糸 ノイト 乃糸の志 ノイトノシ

のゑふ ころゑふ へる木 なる木立 樹
木の下や 桐の花 他 義人草 他 芥子 樟 数
のふか 他 根 殻の 云 待 二 用 ち て 内 ぐ む
花 日 凡 ぐ む 海 日 ま ち 海 日 る ぐ て ぐ
花 山 昔 の 云 日 厚 林 の 花 日 菘 菘
日 櫻 桐 の 花 日 桜 の 実 日 実 福 竹 八

子 たくんち すくの子 能 岩 梨 日 落 日
蔓 蓮 の 実 根 日 能 田 と ち ち
か ん こ ち 日 人 ち 日 落 原 菘 日 ち ち
幅 幅 日 藤 の 依 角 日 と ち ち 飯
能 卵 の 花 短 水 能 蚊 蚊 在 蚊 帳
能 卵 の 花 短 水 能 蚊 蚊 在 蚊 帳

いらこの数 棒あり虫ハチ俳

○五月 さつき、月又と月 仲夏

賀あはれ足掛アヒ松マツ祭マツリ俳ハ

あやめゆくアヤメ内ウチ掛カケ牙キバ倍ツグ早瓜ワサワサ山ヤマ萩ハギ

月ツキ小コたてタテ菖蒲アヤヤ永トヨき根ネ菖蒲アヤヤ刀ヤ菜ナ

玉タマ五彩イロイロ線セン續ツグ糸イト縫ヌイ係ケイ達ダツ辟ヒキ兵ヘイ務ム

菜ナ月ツキ五月イツクと 菜草摘ナクサツク百ヒャク草摘クサツク艾人カイジン人ヒト蒲ハス

艾カイ粉コ團ダンと射イ鹿カのノ百ヒャク草クサとたトたタつ

い 位イ者モノの 田タ種タネ八ハチ月ツキ祭マツリあはれ競キヨヒ

馬ウマ蝶テフの初ハツ声コエ学マナブ事コトと入イ月ツキ令レイ志シ

こまかろコマカロ花ハナらラと 藻モのノ急イハレ 藻モとトくク

藻モ刈キ舟フネ めと刈メトキ 藻モれレ糸イト 百ヒャク令レイ 鬼オニありアリ

さゆり 柘榴乃花 花にりる びく
のこり

死の香 さらりるの香 紫陽草

らの末摘香 忘れの香 萱草

下野の花 石菖 日 金浪花

蕙栲の香 天蓼 桃 加こ

らみの香 早松 草 あふぶ 日 菟

茄子 日 倭瓜 白瓜 かりき 日 南天の

花 日 ありき 躑躅 日 生胡 桃 日 樹の

香 日 橘 山梔の香 香 橘

杏子 日 枇杷 日 山椒 日 みる所

子 日 青田 田 菜 と 瓜 栗

海 日 五月之月 八月より 蔵

雲

月

竹切竹切 友友 祚祚 采采 温温 風風 令令 存存 存存 存存

ふふととおおふふ日日 府府 茶茶 堂堂 ととああるる 令令ああるる

きき日日 夕夕 立立 白白 雨雨 驟驟 雨雨 ああせせ 清清 ああるる

むむととぶぶ 高高 算算 抱抱 葉葉 作作 奴奴 作作 婦婦

舞舞のの 凡凡 薰薰 雲雲 代代 峯峯 麻麻 地地 沼沼 併併

ああららううぬぬととととこころろ 交交切切のの 茶茶 併併 川川

鴉鴉日日 煮煮 塩塩 柿柿 づづりり 子子 桃桃 日日 楊楊 梅梅 下下 すす

りり日日 林林 檣檣 百百日日 ぬぬ日日 接接子子 石石 竹竹

蓮蓮 蓼蓼 併併 苳苳 菇菇 併併 何何 骨骨 日日 菱菱 のの 舌舌

夫夫 秋秋 蒲蒲 のの 穂穂 併併 海海 松松 蒲蒲 とと 刈刈

他他 植植 りり 疾疾 線線 花花 日日 眼眼 皮皮 日日 後後 雪雪 月月

花花 日日 梅梅 接接 子子 日日 玉玉 簪簪 死死 日日 ささ りり 人人 茶茶

二
月

四
月

大

香

洗りうの子花日 かつす麻日 香薷カウ 他

香薷カウ 蒜の根日 紫蘇日 香鬼灯アラホウソウ

麻瓜アハリ 日西瓜スイカ 夕ユウ 秋アキ 干瓢カンピョウ びく

豆ヒレ 秋アキ の花日 小角豆日 初ハツ のひさり

蟬セメ 蝉セメ 秋アキ の

夜虫ヨコエ 秋アキ の

隣カケ 秋アキ の 樹香カケカウ

○七月 七月 夕ユフ 月ツキ 夕ユフ の月

一ヒト 瓜ウリ の舟フネ 桐キナンド 柳ヤナギ 秋アキ の

御ミ 水ミヅ 七夕セウシヤ 秋アキ の

牛女ウシメノ 河カハ 敷シ 秋アキ の

妻ツメ び久ヒサ 舟フネ 秋アキ の

七月

香

香

さり夜コト 具之シタの 乞巧キウカウ奠デン 秋の糸を乃カチ 梶カチの

葉イモの葉イモ 他他 送代キヨウダイ 峯入ミネイリ 山山 八月

六道ロクドウ系ケイ 九日建仁寺の南南 栲カウ 賣ウリ 乃乃

以以 盂蘭ウラン盆ボウ 中元共中元共 魂タマまのり魂まのり 萩萩

生イ 牙キ 玉タマ 刺サシ 結ムス 乃乃

灯笼トウロウ 躰タテ 他他 送火スリヒ 花火ハナヒ 日ヒ 相撲ソウブク

角カク 八幡ヤチワン 安ヤス 店テン 氏ウヂ 十五日十五日 今日今日 地チ 花ハナ 祭マツリ

あうけ茶茶 柏カシ のの 霧キリ 霧キリ 編ヒ 書カキ

い初イハツの 他他 初ハツ 月ツキ 合アヒ 入イリ い

鳳ホウ 仙セン 花ハナ 本ホン 様サマ 月ツキ 合アヒ 草クサ 花ハナ 女メ

郎ロウ 牽ケン 牛ウシ 花ハナ 萩ハギ 萩ハギ 萩ハギ 萩ハギ

蒲ハス 芝シ 蘭ラン 他他 花ハナ 芭蕉バショウ 小車コクルマ 花ハナ 他他

七時 舞

七月
八月

桔梗キキョウ 萩ハギ 犬子イヌコ茶チヤ 萩ハギ 萩ハギ すまゐ
 茶チヤ 他タ 仙セン 孫ソン 花ハナ 日ヒ 茶チヤ 原ハラ 茶チヤ 日ヒ 赤アカ 切キレ 茶チヤ
 観カン 音オン 茶チヤ 木キ きキ おオ ぐグ さサ 菊キク 花ハナ 海ウミ 人ヒト 志シ 志シ 志シ
 山ヤマ 慈ジ 姑コ 之シ 俗ソク 益イク 母モ 茶チヤ 日ヒ 日ヒ 日ヒ 一イチ まマ うウ かカ の
 云クモ 志シ 比ヒ とト のノ 志シ 益イク 母モ 茶チヤ 日ヒ 日ヒ 日ヒ 一イチ まマ うウ かカ の
 花ハナ 日ヒ やヤ いイ とト 志シ 日ヒ あア りリ 豆マメ 日ヒ 蓮レン 實ジツ と
 岐キ 日ヒ 孫ソン 瓜カ 日ヒ 楸シ のノ 実ミ 日ヒ 木キ 瓜カ のノ 実ミ 日ヒ

槐ヱビノハコ 花ハナ 日ヒ 早ワカ 田タ 日ヒ びヒ ろロ の
 ちチ やヤ こコ せセ 木キ のノ 中ナカ にニ まマ ちチ 惆ウラハシ 日ヒ 松マツ 虫ムシ
 鈴スズ 虫ムシ 繼ツグ 虫ムシ 他タ 蚕シ 蛸シヤウ 志シ こコ とト 日ヒ 佛ブツ
 いイ がガ 志シ ろロ 鳩トビ 八ハチ 存ツク るル 鳥トリ とト 糸イト 月ツキ 名ナ 者モノ 屋ヤ
 出デ のノ 初ハツメ 夜ヨ 八月ハチグチ 或アル ハ 鳩トビ 吹フク 鳩トビ のノ まマ ちチ のノ
 ○ 八月ハチグチ 秋アキ 月ツキ 日ヒ 尺セ 月ツキ

四季

廿一

さびあひの 為 船 下 下 築 崩 築 森 森
 他 鮫 鮫 鮫 小 鮫 引 他 他
 野 分 初 夜 初 夜 他 他
 田 と 外 縮 糸 縮 糸 縮 糸
 痛 楚 案 山 子 縮 糸 縮 糸 縮 糸
 な なる こと なる こと なる こと なる こと

○九月

九月 九月 九月 九月 九月 九月 九月 九月 九月 九月
 泉 涌 古 舍利 舎 八 日 重 陽 宴 重 九
 菜 黄 花 紫 菊 瓶 醍 醐 祭 九 日 祭 藝 子
 祭 九月 貴 布 祢 祭 日 出 立 祭 日 日
 仁 富 祭 十日 任 吉 市 十三日 室 の 市 十
 の 名 月 祭 五 月 他 粟 五 月 日 粟 五 月 日 祭

他十 祇田の祇祭十五日 忌部祭他日

五 日 吳服祭十八日 あやえ祭十七日 八幡祭十日

改 日 城南古祭 野孔宮乃別

撰虫 桂輪と

あゝ月菊 豺獣とある

月 令 糸 多足草 くのちる 付 ぬ おとむ

梅お祭 梅お祭 梅お祭

松檀 松檀 松檀

楓 楓 楓

浪杏 推 推 推

蜜柑 金柑 九条母 柚

雲州橘 佛子柑 佛子柑

四季

五

楸カ 榴ロ 榧キ 胡椒コ 梨リ

備梨ビのノ実ミ 梨リ 榧キのノ実ミ 橡クのノ実ミ

榛ハ 圓エン 栗リ 胡桃カ 子シ 榛ハの

実ミ 日ヒ さサいイくク 日ヒ きキこコくク 日ヒ せんセンぐグんンの

実ミ 日ヒ 楸クのノ実ミ 日ヒ たタのノ実ミ 南ナン天テン

のノ実ミ 日ヒ 柿キとトきキ 日ヒ ろロんン木キ 日ヒ 山サンのノ木キ

野ノ山サンのノ色シキ 野ノ山サンのノ綿ワタ 日ヒ 枯カ 日ヒ 仙セン葱ソウ

佛ブツ 其ソノのノ種タネ 日ヒ 藤フジ 日ヒ 藤フジ 日ヒ 藤フジ 日ヒ 藤フジ

思オモひヒ茶チャ 日ヒ 藤フジ 日ヒ 藤フジ 日ヒ 藤フジ 日ヒ 藤フジ

日ヒ 藤フジ 日ヒ 藤フジ 日ヒ 藤フジ 日ヒ 藤フジ

老ラウ母モ草ソウ 日ヒ 菟ト豆トウ 日ヒ ぬヌんンとトとト 日ヒ

日ヒ あアつツとト 日ヒ あアつツとト 日ヒ あアつツとト 日ヒ あアつツとト

日ヒ あアつツとト 日ヒ あアつツとト 日ヒ あアつツとト 日ヒ あアつツとト

九月

四季

五

四

六

達磨忌 十月十日 十夜の念仏 五日

煮みゆ湯漬 九月十日 下元 十月十五日 開山忌

東福寺用山忌 十月二十七日 大社の祭 十月 秋の祭

湯 十月 秋の祭 十月 湯 十月 湯 十月

圍炉裏 十月 火桶 十月 茶の口切 十月

初時 十月 村の祭 十月 川喜所 十月 初 十月

長あね 十月 柱 十月 月の夜 十月 青か 十月 萩 十月 萩 十月 萩 十月

萩 十月 萩 十月 萩 十月 萩 十月 萩 十月 萩 十月

萩 十月 萩 十月 萩 十月 萩 十月 萩 十月 萩 十月

萩 十月 萩 十月 萩 十月 萩 十月 萩 十月 萩 十月

萩 十月 萩 十月 萩 十月 萩 十月 萩 十月 萩 十月

萩 十月 萩 十月 萩 十月 萩 十月 萩 十月 萩 十月

四

六

八月の花 日 空を菊 日 蓄菜 八月の

蒸菜 日 蕪引 日 変身の日 物言 初

水月 日 後氷る 日 月さ 寒さ

糸と 細代 日 水魚子 日 板

一 日 魚ととるため 日 ありき

死鳥 鴨 日 糸魚引 日 山へて 蟹

とと 鱈 日 せ海 日 楯 日 炭竈 日 炭

鱈 日 綿 日 糸魚引 日 綿 日 帽子 日

糸 日 紙子 日 蒲団 日 頭巾

たん 日 雨 日 雪 日

○十一月 日 霜月 日 神楽月

宮線 日 唐の官中 日 糸とら 日 糸

七月

山科祭ヤシナとのトノ卒野祭ソノノ日ニチ申ウラナヒ春月ハルツキ

祭マツリ同日ツギノヒ當麻祭タママ日ニチ大系野祭オホノノ中子日ナカコノヒ

吉田祭ヨシダ中申ナカウラナヒ日吉祭ヒヨシ日ニチ六反ムササハの祭ノマツリ

豊明節念トヨアカリノセキ中辰ナカツチ里神乐サトカシラ

目蓮ヒカゲの系イトロウケのろうウラとそトソ衣ハ新ニ堂ウチ念ノマツリ

小忌夜コノノヨ山前ヤマノヘの祭ノマツリ

二月

炬燵カマド祭マツリ非系ヒケイ歌ウタのノ祭マツリ火ヒ

燒池ヤキイケ子系コノノ日ニチ吹草フイコ祭マツリ日ニチ空也カラヤ祭マツリ

十二ジュニ日ニチ御ミ講コウ日ニチ御ミ祭マツリ南ミナミ祭マツリ

三待サンマテの西ニシ市チ中ナカ酉ウ日ニチ霞カスミ祭マツリ六ムササハのノ祭マツリ

佛ブツ香カウ吹フキ敷シキ電デン巻マキのノ祭マツリ

水ミヅ托トク垂ツル氷ヒヤウ内ウチ之ノ祭マツリ水ミヅ祭マツリ

水の石の能 水ささき 冬玉栞 水仙

花 蓮 葱 根深 将 花場の花かり

香る 香る 香る 香る 香る 香る

もまるとあふ とくま 煖室

とりのれねらま 力ま 香る 香る

香る 鯨 鯨 物辨 日 鮎 日

二月

正月

鶴 日 石花 日 ひご 日 あを 日 花め

たき 日 香 日 綱貫 日 香

の 香 香 香 香 香

あろう 香 香 香 香

〇十二月 香 香 香

し子の報 日 佛 日 十九日 かつけ綿

三

佛名の事 伏見殿 下午 荷あはれ使 十日
 御よたまま 二日
 かつき 帝后との侍 二日
 供とてとらるるあり
 万勝日 天子の御変 和布刈の祓り
 仍幸あつあり
 大徳寺 開山忌 大ニ 妙宮井 跨馬 十日
 相の事 伊勢 伊宮の里入 追饗 十日
 小御へ 跨るよとらるるあり
 らよとらるる 別歲 節分 五糸天神系
 鎌竹

ままの 室船 いらぎの 大ニ 鷲 十日
 はるとも 令うとて 記集とて 大ニ 初 十日
 小つごもり 大徳日 春と隣 十日
 まらうき 正月の 札あさめ 十日
 年来る 煤掃 節季 十日
 餅つき 室垢 室声 室と作 十日

四

五

冬ノユキ日 河豚汁 日 菜喰 日 白子 日

曝 日 年 日 日 日 日 日 日 曆 日 日 日

子 日 寒 日 梅 日 臘 日 日 日 日 日

此 日 孟 日 日 日 日 日 日 日 日

元禄四年 未年 三月日

洛陽書林 新井彌兵衛版

維新... の... 味...
必... の... 味...
句... の... 味...
此... の... 味...
か... の... 味...
な... の... 味...
の... の... 味...
ん... の... 味...

つりあふさ句の中ナカの作らふまてふまはし
あゆみ維チ維チの疵キズ之二三句あの句のあ
てもどころへ付くもも知るぬれかの句を
ほの付心のまをくするを能下心のあひ
てもあの句とあらふしてりあのあらは
あてしてあらはしろのれらりあぐる初心のう
らいともあらはしるかあらいもあらはしるかあらいも
あらはしるかあらいもあらはしるかあらいも
あらはしるかあらいもあらはしるかあらいも
あらはしるかあらいもあらはしるかあらいも

